

鉄骨工事施工結果報告書 (延べ面積が 500 m²を超える建築物) (中間・完了)

年 月 日

様

代表となる工事監理者 住所 _____ 電話 _____
 会社名 _____ 級建築士事務所 登録第 _____ 号
 氏名 _____ 級建築士 登録第 _____ 号

工事施工者 住所 _____ 電話 _____
 会社名 _____ 建設業の許可 大臣・知事()第 _____ 号
 氏名 _____
 (法人にあつては、その事務所の所在地・名称・代表者氏名及び社印)
 品質窓口責任者氏名 _____ 電話 _____

この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

建築主 住所 _____ 電話 _____
 氏名 _____
 (法人にあつては、その事務所の所在地・名称・代表者氏名及び社印)

次の鉄骨工事施工結果について、工事監理者から報告を受けました。

(工場名: _____ 工場)

建 築 物	工事現場	名称			建築工事施工 計画報告書	年 月 日 第 号		
		所在地	区 市					
		構造設計者		所属会社		電話		
		溶接技術監督員		所属会社		電話		
		品質管理責任者		所属会社		電話		
		構造種別	S造 RC造 SRC造 ()造		架構形式	ラーメン プレース ()		
		軒の高さ	m	最大張り間	m	延べ面積	m ²	
		確認済証交付機関						
		確認・計画通知、年月日及び番号			年 月 日	第 号		
		計画変更年月日及び番号			年 月 日	第 号(変更内容は別紙)		
鉄骨加工工場	名称							
	所在地	代表者氏名						
	認定・登録番号種別							
	溶接の種類	a 工場製作()			b 工事現場製作()			
使用鋼材	鋼材種別 (最大板厚) (mm)	柱		はり		その他		
		SS () SM () SN () STKR () BCP () BCR () その他(TMCP、FR)()			SS () SM () SN () その他(TMCP、FR)()	ダイアフラム() ベースプレート()		
監理者総合所見						受付欄		

工 場 溶 接		
検査関係者	a 鉄骨加工工場の溶接管理技術者 会社名 氏名 資格	
	b 鉄骨加工工場の検査技術者 会社名 氏名 資格	
	c 自主検査受託検査会社の検査員 会社名 氏名 資格	
	d 受入検査受託検査機関の検査員 会社名 氏名 資格	
	都登録 第 号	
	e 工事施工者の検査担当者 会社名 氏名 資格	
	f 工事監理者又は係員 会社名 氏名 資格	
g 溶接技術監督員 会社名 氏名 資格		
溶接部の受入検査	検査項目 ① 突合せ溶接部の外観検査(VT) <input type="checkbox"/> 表面欠陥検査 <input type="checkbox"/> 溶接部の寸法 <input type="checkbox"/> 外観形状 ② 突合わせ溶接部の超音波探傷検査 ③ すみ肉溶接部の外観検査	
	ロット構成 <input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 製作部位(柱はり仕口接合部、柱接合部、その他)ごと <input type="checkbox"/> ロットの大きさ 300 個以下 <input type="checkbox"/> ロットの大きさ()個以下	
	抜き取り方法 <input type="checkbox"/> JASS6 の方法 <input type="checkbox"/> ロットごと一律()% <input type="checkbox"/> ロットごと一律()個 <input type="checkbox"/> その他	
	指定事項 初回抜き取り率 VT()%以上 UT()%以上 ロット許容不良率 VT()%以下 UT()%以下	
	VT の不 内容 箇所	
UT の不 内容 箇所		
処不良 理内 容箇 所の	VT	UT
パ工場溶接部の ス間温度管の 理入熱 状況・	の温度 考察 管理 結果	
	の手 順 考 察 管 理 結 果	
内質検査 ※	検査方法 <input type="checkbox"/> 硬さ試験 <input type="checkbox"/> 不可逆性の示温塗料塗布 <input type="checkbox"/> その他	
	ロット構成 <input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 製作部位(柱はり仕口接合部、柱接合部、その他)ごと <input type="checkbox"/> ロットの大きさ 300 個以下 <input type="checkbox"/> ロットの大きさ()個以下	
	抜き取り方法 <input type="checkbox"/> ロットごと一律()% <input type="checkbox"/> ロットごと一律()個 <input type="checkbox"/> その他	
	結果の判定及び処置	

※ 高さが45mを超える建築物で溶接する鋼材の板厚が25mm以上の部分又は高さが45m以下の建築物で溶接する鋼材の板厚が40mmを超える部分において、鉄骨造等の工事に関する東京都取扱要綱により内質検査を必要とする場合に実施した受入検査

工 事 現 場 溶 接			
溶接部の受入検査	検査項目	① 突合せ溶接部の外観検査(VT) <input type="checkbox"/> 表面欠陥検査 <input type="checkbox"/> 溶接部の寸法 <input type="checkbox"/> 外観形状 ② 突合せ溶接部の超音波探傷検査 ③ すみ肉溶接部の外観検査	
	ロット構成	<input type="checkbox"/> 総溶接線数 <input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 各階ごと <input type="checkbox"/> 溶接工ごと <input type="checkbox"/> その他	
	抜き取り方法	<input type="checkbox"/> 全数 <input type="checkbox"/> その他	
	指定事項	初回抜き取り率 VT()%以上 UT()%以上 ロット許容不良率 VT()%以下 UT()%以下	
	VT 不良箇所の内容		
	UT 不良箇所の内容		
不良箇所の処理内容	VT		UT
現場溶接部の入熱・パス間温度管理状況	温度管理結果の考察		
	手順管理結果の考察		
内質検査 ※	検査方法	<input type="checkbox"/> 硬さ試験 <input type="checkbox"/> 不可逆性の示温塗料塗布 <input type="checkbox"/> その他	
	ロット構成	<input type="checkbox"/> 総溶接線数 <input type="checkbox"/> 各節ごと <input type="checkbox"/> 各階ごと <input type="checkbox"/> 溶接工ごと <input type="checkbox"/> その他	
	抜き取り方法	<input type="checkbox"/> 全数 <input type="checkbox"/> その他	
	結果の判定及び処置		

※ 高さが45mを超える建築物で溶接する鋼材の板厚が25mm以上の部分又は高さが45m以下の建築物で溶接する鋼材の板厚が40mmを超える部分において、鉄骨造等の工事に関する東京都取扱要綱により内質検査を必要とする場合に実施した受入検査

第8号様式

鉄骨造確認項目報告(延べ面積が500㎡を超える建築物)									
確認項目	確認内容 欄中の※は法令規定事項である重要確認項目を示す。			溶接管理	第三者検査	工事施工者	工事監理者	備考	
				技術者	機関				
				※2	※2	※2	※2		
				確認方法	確認方法	確認方法	確認方法		
他※1 工程部分	基礎工事		RC造による						
	RC工事		RC造による						
一報告書審査による確認事項 ②③⑥は加工工場における作業に対する確認事項	①加工工場の選定 ※3	※	規則条の3	建築物の規模等認定の条件に見合った生産能力の有無、溶接部の受入検査率の確認					
	②指定建築材料の品質規格確認	※	法37	a) 鋼材、高力ボルトセットの規格品質の確認					
	③組立精度の確認	※	令67	b) 溶接材料の規格と鋼材の組合せの適否					
	④製品検査1(鉄骨部材の寸法精度測定)		令67	開先角度、ルート面、ルートギャップ、食違い等組立て時の鉄骨の精度					
	⑤高力ボルト接合部の処理	※	令67	高力ボルト接合部の摩擦接合面の処理、ボルト孔の径ピッチ・縁短距離等					
	⑥製品検査2(溶接接合部の検査)	※	令67	外観検査及び超音波探傷検査の結果確認(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準 UT基準) ※7					
工 事 現 場	1全体								
	①加工工場の類別	※	規則条の3	表示板又は認定書による加工工場の類別グレード確認					
	②指定建築材料の品質規格確認	※	法37	a) 鋼材等の品質規格証明書と現物の照合					
	③部材の配置	※	令67	b) 溶接材料の規格と鋼材の組合せの適否					
	④部材の寸法・形状	※	令38	柱、はり、ブレース、床版等の配置(確認図書との照合)					
場 確 認 事 項	⑤建て方精度		令38	柱、はり、ブレース、ダイヤフラム、床版等の寸法・形状(確認図書との照合)					
	2溶接接合部	①加工溶接部分の外観・形状・寸法 ※4	※	令92 令96	a) 溶接継ぎ目の種類(突合せ溶接・すみ肉溶接)				
			※	令67	b) ダイアフラムとフランジのずれ				
			※	令67	c) 突合せ継手の食違い				
			※	令67	d) アンダーカット				
			※	令67	e) 割れ				
				f) その他の溶接部の外観・形状(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準)					
	②工事現場溶接部分の組立精度 ※5			開先角度、ルート面、ルートギャップ、食違い等組立て時の鉄骨の精度					
	③工事現場溶接部分の製品検査			外観検査及び超音波探傷検査結果(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準、UT基準) ※7					
	④工事現場溶接部の外観・形状		※	令38	a) 工事現場溶接部の部位(確認図書との照合)				
		※	令92 令96	b) 溶接継ぎ目の種類(突合せ溶接・すみ肉溶接)					
		※	令67	c) ダイアフラムとフランジのずれ					
		※	令67	d) 突合せ継手の食違い					
		※	令67	e) アンダーカット					
		※	令67	f) 割れ					
				g) その他の溶接部の外観形状(参考: JASS6付則6鉄骨精度検査基準)					
ボルト高力	①トルシア形	※	令92 の2	a) 工事現場受け入れ検査(トルク係数値確認導入張力確認試験)実施状況及び保管状況の確認					

※6		※	令 92 の 2	b) ボルトの本数、スプライス数、摩擦接合面の確認					
		※	令 67	c) ボルトの径、孔径、中心距離、縁端距離の確認					
		※	令 92 の 2	d) 締付け状態の確認(肌すき・ピンテール破断・マーキングの状態の確認)					
	②JIS 形六角	※	令 92 の 2	a) 締付け機器の調整、工事現場受入検査(導入張力確認試験)の実施状況の確認					
		※	令 92 の 2	b) ボルトの本数、スプライス数、摩擦接合面の確認					
		※	令 67	c) ボルトの径、孔径、中心距離、縁端距離の確認					
		※	令 92 の 2	d) 締付け状態の確認(肌すきの有無・マーキングの状態の確認)					
4	ブレース接合部		令 3 章 8 節	ブレース接合部の形式・板厚・材質・補剛材等の確認					
5	柱の脚部の構造方法	共通		令 66	柱脚接合工法と仕様の確認(確認図書との照合)				
		①露出形式	※	令 66	a) アンカーボルトの材質・径・本数とナットの高さの確認				
	※		令 66	b) アンカーボルトの均等な配置の確認					
	※		令 66	c) 座金の使用、ナットの戻り止め措置の確認					
	※		令 66	d) アンカーボルトの定着長さの確認					
	※		令 66	e) 柱の最下端の断面積に対するアンカーボルト全断面積の割合の確認					
	※		令 66	f) ベースプレートの厚さの確認					
	※		令 66	g) アンカーボルトの径・孔径・縁端距離の確認					
	※		令 66	h) アンカーボルトの締付け状況の確認					
	②根巻き形式	※	令 66	a) 根巻き部分の高さの確認					
		※	令 66	b) 根巻き部分の立ち上がり主筋の本数及びその頂部のかぎ状架構の確認					
		※	令 66	c) 立ち上がり主筋の定着長さ(根巻き部分・基礎)の確認					
		※	令 66	d) 根巻き部分の帯筋(令 77②③)					
	③埋込み形式			e) スタッドボルトの径・本数・配置・溶接状況の確認					
		※	令 66	a) 柱の埋込長さの確認					
		※	令 66	b) 側柱・隅柱の U 字型補強筋等による補強の確認					
		※	令 66	c) 埋込部分の鉄骨のかぶり厚さの確認					
			d) スタッドボルトの径・本数・配置・溶接状況の確認						
6	床スラブ接合部	※	令 3 章 8 節	a) 床構造の形式(合成スラブ・)					
		※	令 3 章 8 節	b) シャーコネクター(頭付きスタッド等)の施工状況・検査結果の確認					
7	帳壁等の接合部			緊結金物の取付状況の確認					

(注意) 1 鉄筋コンクリート造検査確認項目による。

2 確認の方法

A: 工事現場で目視により確認したもの

B: 工事現場で検査機器を用いて計測検査したもの

C: 報告書により確認したもの

D: 工場等で検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの

E: 第三者機関等が検査機器を用いて計測試験し、その結果を工事監理者又は工事施工者が確認したもの

F: 工事監理者 (構造担当: 会社名 氏名)が直接確認したもの

施工者及び工事監理者が A から F までの確認方法を参考に記入してください。また、配筋工事等の重要項目については、表紙の工事監理組織欄に構造担当者が記載されている場合で構造担当者が直接確認したものについては、A+F、B+F、A+B+C+F 等と記入してください。

3 鉄骨加工工場については、規則第 1 条の 3 に基づく大臣認定制度があります。図書省略をしない場合は、大臣認定工場の指定はありません。

4 当該工事の構造耐力上主要な部分のうち、工場で溶接された部分

5 当該工事で構造耐力上主要な部分の接合に工事現場溶接を用いる場合のみ記入してください (II 2 ③及び④も同様)。

6 当該工事で構造耐力上主要な部分の接合に用いる高力ボルト等を選択して記入してください。

7 UT 基準: 日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準」